



ろうさい連携だより

2011.5

第 8 号

病院の理念

満足と納得が得られる医療の実践

基本方針

- 1 患者さんの安全と安心を第一に考える医療を提供します
- 2 患者さんの権利を尊重し、思いやりのある医療を実践します
- 3 科学的根拠に基づく質の高い医療を提供します
- 4 地域の方々と勤労者の健康管理を支援します



富良野：ファーム富田（撮影：中央放射線部技師長 高城政久）

目次

- p1 挨拶 ● 東日本大震災
- p3 診療科の紹介 ● リウマチ膠原病科
- p3 人事異動
- p4 今号の投稿 ● 暇人の哲学
- p4 お知らせ
- p4 地域連携室から

東日本大震災

副院長・救急医療委員長 徳村 弘実

東日本大震災により被災された皆様そして関係医療機関に、心よりお見舞いを申し上げます。3月11日金曜日午後2時46分。激しい揺れが何とか収まった時、忌まわしい事態が起こったと直感された方は多かったのではないのでしょうか。その忌まわしい事態は、数十分後、東日本太平洋沿岸を襲う巨大津波として現実化しました。東北大学研究チームの調査で、巨大津波の原因として宮城県沖約200キロの日本海溝付近の海底地盤が南東に約50メートル移動、約7メートル隆起したことがわかりました。甚大な被害をもたらした震災は、福島原発事故と相まって現在なお進行形です。医療機関も大なり小なり被害と影響を被りましたが、時間経過とともに復旧、復興が図られてきました。ここでは震災における



当院の状態と対処そして活動を、今までを振り返り報告いたします。

地震直後、1階ロビーに集合した職員で救急体制について協議した。救急外来診療が基本的に可能であることを確認した後、その体制を通常救外より拡大することにした。非常電源は直ちに作動し、まもなく通常電源も復旧したからである。トリアージとして医師2名と看護師、事務職の各1名を救急入口に配置し、救急外来は内科系、外科系、整形外科、後期研修医、研修医の各1名と看護師4名とし万全を期す。残念ながら診療棟4階機械室内のパイプ破損により、手術室内に水漏れあり、手術不能で片肺飛行の状態となった。労災センターを対策本部として幹部職員は交代で詰める。11日夜、身構えた割には、

外傷などの急患が少ない。しかし、低肺のHOT患者が多く入院。近隣の住民が1階ロビーに集まり避難所の様相を呈した。翌日から一般の方には避難所に移っていただくように要請。

翌12、13の土日は、急患は150名前後を数え、普段の約5倍。診療内容は、骨折を除くと慢性疾患の増悪あるいは常用薬を求める患者が大半であった。13日に全国から参集したDMATの方々が当院にも視察に来られ、当院では大きな混乱がなく支援を要しない旨伝える。その際、直下型大地震で多数の重症患者が発生することを想定して組織化された救急チームのDMATは、今回は津波被害のため活躍がきわめて限られた事を知らされた。しかし、14日からは石巻方面、仙台市の被災病院からの患者転院要請があり、地域医療連携室などを通し結果的に50名の転入を受け入れた。手術室は、応急処置によって14日から空調無しながら局麻・腰麻のみの2室で緊急手術を実施、数日後には全麻も可能となり、麻酔科、外科系医師の活躍の場をようやく得た。処方に関しては、門前などの調剤薬局が開かれないため、院内薬の在庫が底つくのを懸念し、3日分、長期投与でも1週間分の院内処方とする。15日からは院外処方が基本的に可能となったが、一部品薄状態の医薬品もあった。14日から日中は通常診療以外に、救急外来として4名の医師を配置した。トリアージ体制は、日中は正面玄関にトリアージポイントを設置。新患は医師によりトリアージを行い、救急外来と各診療科に振り分けを実施した。伝達掲示板を3枚使用する。17日には、放射線防染対策部を立ち上げ、福島原発周辺からの来院者のうち希望者を対象に被爆スクリーニングを開始した。

放射線科では、MRIを除き画像診断機器に異



常がなかったことは幸いであった。18日からMRIも稼働。25日からDSA再開。各種検査は11日水道停止のため、水を使用する機器での生化学検査は不可能となったが、13日水道全面復旧により院内検査は全て可能。22日から一部制限付きで外注検査依頼もできるようになった。患者食は、11日から3日間は備蓄の非常食を提供せざるを得なかったが、その後は調理食を提供。一部職員が、通勤生活ができないため3階西病棟や多目的ホール臨時宿泊していた。システム関係は電気が速やかに復旧し、オーダーリング、看護支援、医事会計、検体検査、RIS・PACSなどの各システム関係は通常稼働が可能で、病院機能は大きく損なわれずにすんだ。暖房は13日夕より重油の援助あり、順次開始できた。建物設備は会計課・中央監視室にて院内設備の目視、応急処置を実施したが、全体に損壊は軽微であった。26日より手術室廊下及び管理棟連結部補修工事開始した。

完全復旧目前、4月7日午後11時32分、震度6強の余震でまたもや手術室に水漏れあり、また手術ストップの憂き目を見た。しかし、麻酔科手術室スタッフの努力と事務方の不休の復旧処置によって3日間で全身麻酔可能となった。4月中旬の最終的な患者統計では、通常診療を除いた被災患者の診療は、入院165名、外来626名に上った。さらに、労働者健康福祉機構として災害医療チームが、当院のアレンジのもと仙台市に派遣された。仙台市医師会の取り計らいで、各労災病院チームは継続的に、若林区避難所を巡回診療し、5月5日まで続けられた。

災害対策本部会



議が連日、三浦院長のもと開催され対策が講じられた。その概要は、単なる救急診療だけでなく、被災病院からの入院患者受け入れ、原発事故による放射線被曝測定、県、市の災害対策本部やメディアとのやりとり、県内病院の情報入手、労災グループによる避難所巡回など多方面にわたるものであった。本院では、ライフラインの復旧が比較的早かったため、手術室を除けば病院機能はほぼ維持され、救急外来の実際も総じて穏やかなトリアージであり、病院全体としては幸い大きな混乱なく経過した。DMATの報告のように、今回は阪神淡路震災とは異なり巨大津波による多数の死亡者に比べて溺水と低体温などによる重症者の数は少なく、最前線の石巻、仙塩の一部病院を除いては他の周辺病院の役割は限定的であったと考えられる。

.....

復旧復興の道筋がまだ明確に見えない、この未曾有の大震災に遭遇したことは医療関係者にとってもきわめて重大であり貴重な経験でもあります。当院としましては、地震直後から、医師、看護師、コメディカル、事務職、守衛など多くの職員が一丸となって、救急診療等に、ライフラインを断たれるかな、可能な限り懸命に努力しました。同時に、院内に新たな団結心が生まれたことは想定外の救いとなりました。一方、災害時の病院体制作りと方針、意思伝達方法や災害拠点病院としてのあり方などの課題も明らかとなりました。最後に、全国からお見舞い、ご支援を多数頂き感謝するとともに、われわれは震災からのさらなる復興に向け邁進しなければなりません。また、病診連携の各医療機関の皆さんのご支援とご協力に感謝申し上げます。

診療科の紹介

リウマチ膠原病科

リウマチ膠原病科部長 島山 明

(後列左から)
渡辺事務員
門脇看護師
渡辺看護師
加藤医師
島山部長
高橋医師



この原稿は東北関東大震災から10日後のめちゃくちゃに散らかった部屋で書いています。地震のときスチール製の古くて重い本棚が天地逆さまにひっくり返ったときは一瞬「これはだめかな」と考えました。それから3日間はほとんど眠っていません。いまだに余震でゆれています。亡くなった方のご冥福を祈り、援助を下さっているおおくの方々に感謝申し上げます。病院はなんとか無事です。日頃病診連携をいただいている先生方には厚く御礼申し上げます。今後とも御指導宜しくお願い申し上げます。今回はリウマチ膠原病科の紹介をさせていただきます。

1 診療内容

大きく分けて関節リウマチに代表される関節炎疾患と全身性エリテマトーデスに代表される膠原病に分けられます。

2 当科の特徴

関節炎疾患と膠原病の割合は10対4位です。関節リウマチは診断や治療法が以前より広く普及したのか割合としては以前より減っていますがその分生物製剤を使用する患者など専門性の高い方が多くなってきてます。

膠原病は病気としての情報は広まって検査を受ける人が多くなったようですが専門医が少ないためどうしても集中してしまうようです。ただ膠原病は全身の臓器に及ぶ疾患ですが当院には脳神経科と腎臓科が無いのでこれらの臓器障害のからだ重症膠原病の診療に苦慮しております。

3 外来体制

常勤医2名と隔週で週1回開業している友人に応援をいただいております。治療薬の副作用や生物製剤の説明などで外来は時間のかかるようになりました。その分診療できる人数が制限され、診察の間隔も長くなっております。

4 入院体制

急性期病棟ですので重症や合併症の急性期の患者がほとんどです。数は多くなくても一人一人が大変です。

5 お願い

1：待ち時間解消のため新患も予約していただいております。リウマチ科の外来に電話していただくよう患者さんにお伝え下さい。予約が無いと当日診察できない場合もあります。曜日と時間を決めております。曜日の希望などが無ければ1週間後くらいには診察できるよう努力しておりますがなるべく余裕をもって下さい。

2：急患や入院が必要な患者の際は直接お電話ください。

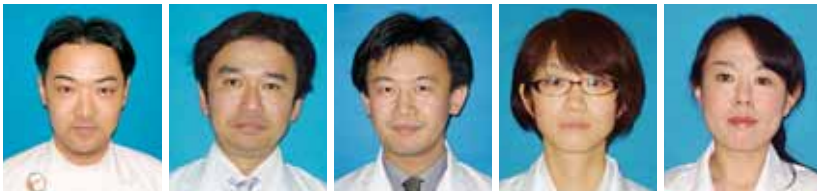
3：落ち着いている患者はできる限り近医におねがいすることにしております。

御協力おねがいたします。

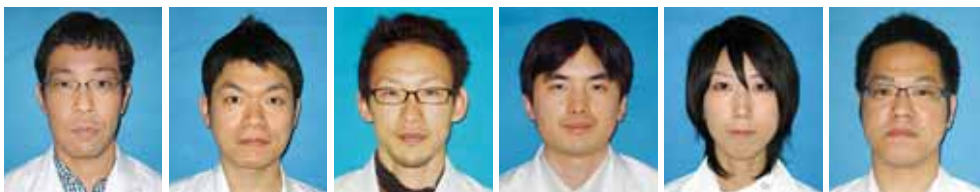
もともと文章が苦手ですが校正の時間もなく乱文にて失礼いたします。

人事異動について

転入



整形外科副部長 日下部 隆
歯科医師 山口 晃史
呼吸器内科医師 井上 大輔
麻酔科医師 大西 詠子
麻酔科医師 佐藤千穂子



整形外科医師 平野 文崇
整形外科医師 園淵 和明
整形外科医師 小河 裕明
健康診断部医師 金野 敏
皮膚科医師 玉淵恵里佳
胃腸科医師 仲程 純

退職 平成23年3月31日付

健康診断部長 長崎 明男
整形外科副部長 川崎 展
整形外科副部長 佐羽内 研
麻酔科副部長 山田 昌宏
糖尿病代謝内科医師 本藏理恵子
糖尿病代謝内科医師 鈴木 亨
整形外科医師 高橋 博之
麻酔科医師 内田健太郎
麻酔科医師 早坂 知子

退職 平成23年4月30日付

皮膚科医師 江川 貞恵

今号の投稿

暇人の哲学

哲学、フィロソフィーとは、知を愛すること、そしてものを直観的に考えることである。

哲学には、人間中心的に人生観、世界観を樹立しようとするのと、科学の基礎づけとか認識という問題を考える立場がある。医学では、医のエビデンスを追求する医科学が主流で、わかりやすい。しかし、エビデンスのないことは「わからない」の一言で片付けがち。生の意味は？なぜ生は尊いか？医学は何を目的に研究するのか？これらを考えることは、エビデンスから離れ思考することで、医哲学といえる。

エビデンスのないことをよく考えること。医を哲学することが求められている。いま、原発を哲学しなければならぬように。

暇人

お知らせ

東北労災病院 第6回市民講座 「あなたの食道・胃は大丈夫ですか？」

日時 平成23年6月18日(土) 13:30 ~ 15:00

場所 東北労災病院 1階ロビー

講師 副院長 大原 秀一 「胸やけだけじゃない逆流性食道炎」
胃腸科部長 浜田 史朗 「内視鏡検査でわかること」

地域医療連携室から

◆乳腺外来の設定日変更について

平成23年4月から下記のように曜日が変更となりました。

受付時間	月	火	木	金
8:15 ~ 11:00	豊島 隆		豊島	
13:00 ~ 16:00 予約制		豊島		武者 宏昭

- 月曜・木曜は 初診、再診を問わず受診が可能です。
- 火曜・金曜は 当院の乳腺外来を初めて受診する方が対象となります。

◆禁煙外来のご予約について

毎週水曜日、午後2時～4時、NPO法人禁煙みやぎ理事長 山本 蒔子医師が保険診療による禁煙外来を行っております。

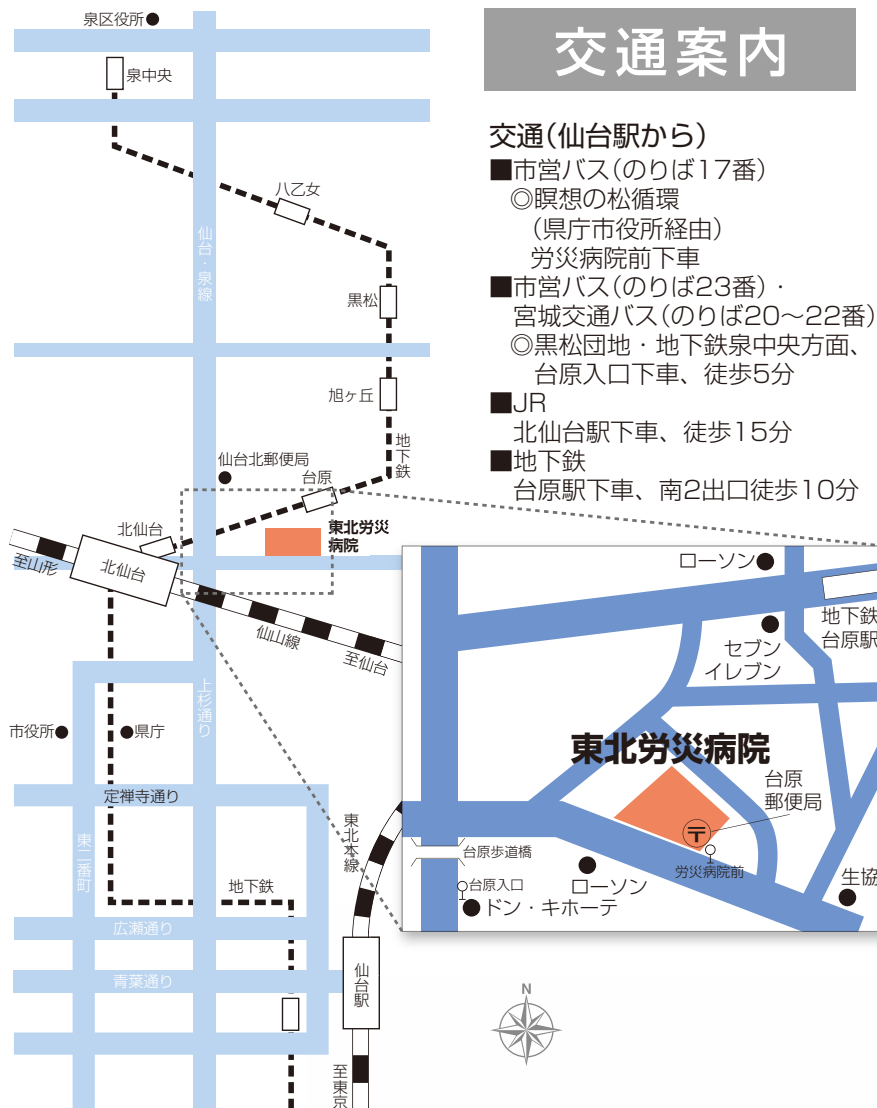
乳腺外来、禁煙外来ともにご予約は 地域医療連携室でお電話を承っております。

患者さんご本人からのお申し込みも可能です。ご紹介状をご用意の上022-275-1467にご連絡ください。

◆月別紹介患者数

	紹介患者数(人)	逆紹介患者数(人)
平成22年12月	958	680
平成23年 1月	877	647
平成23年 2月	951	677
平成23年 3月	735	515

震災の影響により、連携だよりの発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。



交通案内

交通(仙台駅から)

- 市営バス(のりば17番)
○瞑想の松循環
(県庁市役所経由)
労災病院前下車
- 市営バス(のりば23番)・
宮城交通バス(のりば20~22番)
○黒松団地・地下鉄泉中央方面、
台原入口下車、徒歩5分
- JR
北仙台駅下車、徒歩15分
- 地下鉄
台原駅下車、南2出口徒歩10分



独立行政法人 労働者健康福祉機構 **東北労災病院**

〒981-8563 仙台市青葉区台原4-3-21
TEL.022-275-1111(代表) FAX.022-275-4431
ホームページ <http://www.tohokuh.rofuku.go.jp>

地域医療連携室

TEL.022-275-1467(直通) FAX.0120-772-061